

完了報告書

記入年月日 2026年2月10日

採択団体名 公益社団法人中越防災安全推進機構

■事業概要

基本情報	
事業名	中学生が地域の防災の普及啓発の担い手となるジュニア防災リーダー養成・実践事業
事業内容	事業内容①:ジュニア防災リーダー養成講座の実施 事業内容②:地域住民向け防災講座の実践 事業内容③:活動の継続に向けたフォローアップ
事業背景	多くの自治体において、防災講座の参加者が固定化し、情報の普及が一部に留まるという課題がある。特に子育て世代など、日頃地域活動に参加しにくい層へのアプローチが必要とされていた。そこで、従来「受け手」であった中学生を「伝え手(講師)」へと転換し、中学生から家族や地域住民へ発信することで、多世代の防災意識向上を図ることを目的とした。
コミュニティ 設立の経緯	・防災教育に関するコミュニティを設立してきた過去の経緯も含めて記載 ・上記コミュニティ形成における工夫したポイントや苦労したポイントを記載 本事業の実施にあたり、防災の専門的知見を持つ「公益社団法人中越防災安全推進機構」が主体となり、地域に根差した「村上市防災士会」、および行政機関である「村上市(総務課危機管理室)」、生徒の募集や活躍の場を提供する「村上市立村上東中学校」「村上市立神林中学校」と連携体制を構築した。中越防災安全推進機構が持つこれまでの防災講師育成ノウハウを活用しつつ、地域独自の持続可能な体制づくりを目指した。 通常業務などでの公益社団法人中越防災安全推進機構と村上市防災士会、村上市との関係性を活かし、村上市内の小学校へのアプローチは、村上市防災士会長より行っていただいた。
本事業に関する過去の 取り組み内容	新潟県内ではこれまで防災士等を対象とした講師育成が行われてきたが、若年層へのアプローチは十分ではなかった。本事業は、中学生という新たな担い手を育成する初の試みとして企画された
事業体制	・公益社団法人中越防災安全推進機構:事業内容①②③の事業統括、事業内容③の視察研修企画調整(フォローアップ) 1名 ・村上市:事業内容②広報協力(撮影・録画等)、発表会の調整 2名 ・村上市防災士会:事業内容②の発表会の調整、実践講座における中学生への伴走支援 1名 ・村上市立村上東中学校・神林中学校:事業内容①の養成講座や③の被災地視察の生徒募集・引率、事業内容②の学校行事での実践の場の提供 2名
全体スケジュール	・連携団体打ち合わせ、プログラム・スライド開発 ・ジュニア防災リーダー養成講座の開催(8月23日) <9月~10月中旬> ・ジュニア防災リーダーの今後の防災講座や被災地視察の実施に向けての打ち合わせ(9月26日) ・村上東中学校の文化祭におけるジュニア防災リーダーの講演(10月17日) ・村上地区区長会におけるジュニア防災リーダーの講演(10月24日) <11月下旬~12月下旬> ・東日本大震災の被災地への視察(12月13日・中止) ・神林地区区長会におけるジュニア防災リーダーの講演(12月17日) <1月> ・村上市小岩内集落(R4年新潟県北豪雨の被災集落)への視察(1月18日) ・村上市防災士会役員会におけるジュニア防災リーダーの講演ならびに振り返り(1月25日)

事業目標・事業成果	
事業目標全般 (教育提供者側)	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生が活用できる標準化された講座用スライド教材(水害編等)を開発・整備する。(事業対象期間前) ・地域(防災士会・学校・行政)が一体となって次世代を育成する持続可能なモデルを構築する。
事業成果全般 (教育提供者)	<ul style="list-style-type: none"> ・「伝えること」と「伝わること」の違いを学ぶワークショップや、模擬実習を取り入れた養成プログラムを確立した(事業対象期間前) ・村上市防災士会のサポートのもと、中学生が実際に地域や学校で防災講師を務める実績を作ることができた
事業目標全般 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> ・【中学生ハザードマップの活用法や避難情報を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。】1回以上の地域での講座の実施を通して、人前で発表する経験を通じ、自己肯定感と地域貢献意欲を高める。 ・【地域住民】中学生からの発信を通じ、ハザードマップや早期避難の重要性を再認識する。
事業成果全般 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> ・【中学生】村上東中・神林中から計4名の生徒が受講し、全員が認定を受けた。受講生からは「自分の住む地域で講座を開き、学んだことを伝えたい」との意欲的な感想が得られた。 ・【地域住民】文化祭や2回の区長会での講演を通じ、大人たちが「自分たちよりも知識がある」と感心するなど、防災意識への刺激を与えることができた。
展開できる 知見やノウハウ	<ul style="list-style-type: none"> ・「伝えること」と「伝わること」の違いを明確にし、相手の行動変容(ビフォア⇒アフター)を意識させたり、講師体験をさせたりすることを通しての講師育成法。(事業対象期間前) ・中学生が講師となることで、祖父母世代や保護者世代が「孫・子の話なら聞く」という心理的効果を活用した多世代交流型の防災啓発手法。 ・市や学校、地域の防災士連携したジュニア防災リーダーの展開
コミュニティ防災教育の重要な観点	<p>講師育成の視点では、座学だけでなく、ハザードマップ確認やロールプレイング(模擬実習)など、実践的なアウトプットの場を設けることが理解深化に不可欠である。</p> <p>ジュニア防災リーダーの募集にあたっては、学校の協力なしではうまく行かない可能性が高いことから、学校の理解と協力が必要である。</p> <p>中学生がジュニア防災リーダーとして講師活動することで、地域住民も温かい眼差しで熱心に生徒たちの話を聞いてくれる傾向が強く、大人が講座を実施するのに比べて地域住民への防災学習の効果が高いと考えられる。</p> <p>ジュニア防災リーダーとして活動する中学生の人材育成の観点からも、大人の前で話を講義することで自信がつくだけでなく、講義後に地域の大人たちから声をかけられたりすることで、地域のリーダーとしての自覚が生まれたり、家族をはじめ周囲の方に自ら防災知識の普及に努めるなど、様々なプラスの効果が生まれている。</p>
残課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、村上市ジュニア防災リーダーの育成ならびにジュニア防災リーダーによる講座の実践の場を設けたことで、中学生による防災講座は地域住民への防災啓発や中学生の人材育成に有効であることがわかった。来年度からは、村上市内の他の中学校や市外の中学校への水平展開をどう行っていくを検討し、実践していく必要がある。 ・今年度は4名という少数数でのジュニア防災リーダーの育成であったが、多くの生徒がジュニア防災リーダーを希望した場合の育成カリキュラムの検討が必要である。 ・ジュニア防災リーダーの送迎について、校長先生が担ってくださったが、今後の水平展開を考えた場合、地域の防災士の協力体制の構築など、特定の方に負担が集中しない体制を構築する必要がある。 ・神林中学校のジュニア防災リーダーの二人は3年生であり、来年は卒業であることから次年度以降の継続的なリーダー確保が課題である。 ・今後、必要に応じて、水害以外をテーマとしたスライドの作成が必要である。


■事業内容

事業内容① ジュニア防災リーダー養成講座の実施	
事業内容①目標 (提供者側)	4名の中学生に対して、防災知識だけでなく「伝え方」を教えるカリキュラムを実施
事業内容①目標 (参加者側)	ジュニア防災リーダー養成講座を受講し、水害リスクと避難行動を理解し、講師として人前で話すスキルを身につける
事業内容① 実施内容ジュニア 防災リーダー養成 講座の開催 (実施日:8/23) ※事業実施対象期 間外	<p>■具体的な取り組み内容 事業内容①村上生涯学習推進センターにて、村上東中2名・神林中2名の計4名の生徒を対象にジュニア防災リーダー養成講座を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ「『伝える』と『伝わる』はどう違う?」:コミュニケーションの基礎を学習。 ・講義・演習:ハザードマップの見方、避難情報の理解、講義スライドを用いた解説方法の習得。 ・講師体験・模擬実習:生徒自身が講師役となり、参加者(関係者)に向けてデモンストレーションを実施。 <p>■成果(参加者) 4名の生徒が全課程を修了し、「ジュニア防災リーダー」として認定された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒からは「災害時の行動や気の配り方が具体的に分かった」「状況に応じた避難の仕方を学べた」等の成果が確認できた。
事業内容①を実施 する中で発生した 課題や失敗点	<p>■発生した課題や失敗点 養成講座当初は、生徒たちが先生の声かけを基に参加したこともあったが、それほど生徒たちの主体性が感じられなかった。</p> <p>■乗り越えた方法 ワークショップで発言を促したり、講師体験を重ねる中で徐々に主体性を発揮してくれた。</p>
事業内容①を実施 する上で工夫した 点	<p>一方的な講義で終わらせず、フセンを使ったワークショップや講師体験、生徒同士の互いの講義の良い点や改善点を指摘しあうことで、生徒が主体的に参加できる構成とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の防災知識の学習だけでなく、「どうしたら相手に伝わるか」という動機付けを重視した
事業内容① 残課題等	今回は4名の中学生に対する養成講座であったが、今後、養成講座の対象者が増えた場合、講師体験の時間が長くなることが考えられることから、実施プログラムや実施体制については要検討。



事業内容② 地域住民向け防災講座の実践

<p>事業内容②目標 (提供者側)</p>	<p>養成したジュニア防災リーダーの実践の場(学校、地域)をコーディネートすることで、ジュニア防災リーダー自身が講師としての経験値を積み、講師としての自信を身につけさせる。</p>	
<p>事業内容②目標 (参加者側)</p>	<p>中学生講師による講座を通じ、水害や土砂災害の危険が迫った際の正しい避難行動ができるようになるための知識を学ぶ</p>	
<p>事業内容② 実施内容:村上東 中学校の文化祭に おけるジュニア防 災リーダーの講演 (実施日:10/17)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 村上東中学校の文化祭において、認定されたジュニア防災リーダーが生徒および保護者に向けて講演を実施した</p> <p>■成果(提供者) ジュニア防災リーダーが実際に、大勢の生徒の前で発表することで、自信をつけてもらうことにつながった。</p>	
<p>事業内容② 実施内容:村上地 区区長会における ジュニア防災リーダ ーの講演 (実施日:10/24)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 村上地区区長会において、地域のリーダー(区長)約40名に向けて村上東中のジュニア防災リーダーが講演を実施した。</p> <p>■成果(提供者) ジュニア防災リーダーに、沢山の大人の前で発表を行ってもらうことで、講座実施の経験を積むことができると共に、大きな自信へとつながった。(参加者) 中学生が講座をしたことにより、ほとんどの参加者が熱心に講座に聞き入ってくれた。</p>	
<p>事業内容② 実施内容:神林地 区区長会における ジュニア防災リーダ ーの講演 (実施日:12/17)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 村上地区区長会において、地域のリーダー(区長)約40名に向けて神林中のジュニア防災リーダーが講演を実施した。</p> <p>■成果(提供者) ジュニア防災リーダーに、沢山の大人の前で発表を行ってもらうことで、講座実施の経験を積むことができると共に、大きな自信へとつながった。講座終了後、生徒自身が今後も人のために貢献したいと話するなど、人間的な成長にもつながった。(参加者) 中学生が講座をしたことにより、ほとんどの参加者が温かい視線で、熱心に講座に聞き入ってくれた。</p>	

<p>事業内容② 実施内容:村上市 防災士会における ジュニア防災リーダ ーの講演 (実施日:1/25)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 村上市防災士会役員会において、17名に向けて 村上東中のジュニア防災リーダーが講演を実施し た。</p> <p>■成果(提供者) 2回目の講座ということで、前回に比べて自信を もって堂々と発表を行うなど、ジュニア防災リーダ ーとしての成長が顕著に見られた。講演後の防災 士の皆さんとの意見交換の中で、その取組みを認 めてもらうことができ、大きな自信につながった。 (参加者) 中学生のジュニア防災リーダーの講座を実際に防 災士の皆さんに聞いてもらえたことで、ジュニア防 災リーダーの可能性を感じてもらおうと共に、今後、 ジュニア防災リーダーとの活動の連携の可能性を 考えてもらうきっかけとなった。</p>	
<p>事業内容②を実施 する中で発生した 課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点 今回、村上市防災士会会長の力やつながりに頼って、本事業を進めてきたため、一部防災士から周知不足ではないかとの声が上がった。</p> <p>■乗り越えた方法 今年の事業の経緯を説明した上で、来年以降は防災士の皆さんにも活動に参画いただけるようお願いをした。</p>	
<p>事業内容②を実施 する上で工夫した 点</p>	<p>防災士会役員会の場で、ジュニア防災リーダーの発表を行ってもらうことにより、防災士の皆さんにもジュニア防災リーダーの活動や今後の展開の可能性があることを知ってもらうことができ、次年度、ジュニア防災リーダーと防災士が連携して活動を行うきっかけづくりを行った。</p>	
<p>事業内容② 残課題等</p>	<p>現状では、学校の先生が引率者として生徒を、講演会場まで連れてきてくださったりしているが、学校の負担が大きくなると、継続や拡大が難しくなることから、防災士の皆さんが引率できるような体制を整えたい。</p> <p>また、本事業終了後の防災士やジュニア防災リーダーに対する謝金の財源確保は課題である。</p> <p>その他、まだ事業開始したばかりであるので、課題にはなっていないが、今後、以下のようなポイントについても検討を行う必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジュニア防災リーダーへの地域からの講座依頼の窓口や、ジュニア防災リーダーへの依頼方法などの整備 ・ジュニア防災リーダーによる講座の実施体制(サポート体制)の整備 	
<p>事業内容③ 活動の継続に向けたフォローアップ</p>		
<p>事業内容③目標 (提供者側)</p>	<p>被災地(宮城県名取市閑上地区等→村上市小岩内集落に変更)を訪問し、語り部から被災体験を聞いてもらうことで、防災の原点と「伝えること」の重要性を再確認してもらう。</p>	
<p>事業内容③目標 (参加者側)</p>	<p>被災地の様子を実際に見ることで災害の恐ろしさを実感すると共に、被災を経験された当事者の方のお話を聞くことで、ジュニア防災リーダーとして地域で防災講義を行うことの意義や大切さを認識する。</p>	

<p>事業内容③ 実施内容:東日本大震災被災地視察 (実施日:12/13)</p>	<p>閉上の記憶やいわむらひつじ村などを運営している JOCA 東北へ視察する予定であったが、地震の影響により安全確保が困難と判断し、中止とした</p>	<p>—</p>
<p>事業内容③ 実施内容:村上市小岩内集落(令和4年新潟県北豪雨の被災地)視察 (実施日:1/18)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 令和4年新潟県北豪雨で甚大な被害を受けたものの一人の犠牲者も出さなかった小岩内集落を訪問し、被災の様子を実際に見学した他、地域住民の皆さんから当時の様子などをお話いただき、意見交換を行った。</p> <p>■成果(提供者:小岩内集落の皆さん) 中学生に当時の様子などを話しをたり、現地を案内することなどを通して、中学生が防災講座をする意義を理解いただくことができた。</p> <p>(参加者:ジュニア防災リーダー) 当時の様子を聞くことで、小岩内ではなぜ犠牲者が生じなかったのかを学べた他、地域の方から「孫に言われて逃げようと思った」といった話を直接聞くことができ、中学生が講師をする意味を認識してもらえたのではないかなと思う。</p>	
<p>事業内容③を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小岩内集落への視察は、事業の残り実施期間が少なかったことや、運営側の日程の都合で実施日程を決めなければならなかったため、結果的に神林中学校からの参加者がいないなど、少人数での実施となってしまった。 ・小岩内集落の区長さんが代表して、当時の様子などを話してくださったが、通常、大人向けのものであるため、中学生には少し理解が難しい内容になってしまった。 <p>■乗り越えた方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回は、地震の影響で東日本大震災被災地への視察が中止となってしまい、残り期間での実施となってしまいやむを得ない面はあったものの、次回、実施の際にはできるだけ多くのジュニア防災リーダーならびにジュニア防災リーダー希望者が参加できるように日程調整を行う。 ・中学生にもポイントを少しでも抑えてもらうために、こちらから区長さんや地域の方に質問をし、意見交換をすることで、できるだけ中学生にもわかりやすくなるように試みた。 	
<p>事業内容③を実施する上で工夫した点</p>	<p>災害によって、どのような被害が生じ、なぜ多くの方が犠牲になったのかを、実際に被災地に赴き、被災地の皆さんからお話を聞くことで、ジュニア防災リーダーや候補者に実感してもらい、日ごろから防災に取り組む大切さや身近な人を守ることの大切さを学んでもらう機会とした。</p>	

事業内容③ 残課題等	参加者が少数だったため、被災地の様子や被災を経験された皆さんの声を多くの中学生に聞いてもらうことが叶わなかった。来年度以降、現地視察やジュニア防災リーダー等を対象とした講演会を企画し、より多くのジュニア防災リーダーや候補者が地域住民の声を聞ける環境を作っていきたい。
---------------	---

■参考資料

- ・東日本大震災被災地視察チラシ
- ・小岩内集落被災地視察チラシ
- ・ジュニア防災リーダー養成講座スライド資料
- ・ジュニア防災リーダー講義用スライド
- ・ジュニア防災リーダー養成講座チラシ